

学校・地域で広がる国際理解教育

—10年目の国際理解促進事業—



▼音楽リクリエーション



▲世界旅行クイズ



▲かぼちゃ団子づくり

海外研修生・留学生7カ国13人が来町

国際化の時代に向けて
年1回の楽しいひと時

11月20日・21日の両日、町教
育委員会が主催する国際理解促
進事業が総合文化センターと町
内小中学校で行われました。

この交流会は、国際感覚を身
につけ、国際理解や国際協力へ
の大切さを培うことを目的に(社

北方圏センターの協力を得て、
平成13年から毎年開催され、今
年10年目を迎えました。

20日、町内児童生徒や保護者
など約40人と中国・ブラジル・
アメリカなど7カ国からの(社)北
方圏センターの研修生と北海道
大学の留学生13人は、総合文化
センターで世界の文化や生活習
慣などを2択にした「世界旅行
クイズ」や町内でとれるカボチ
ヤを使ったかぼちゃ団子づくり
などで交流を深めました。

また、翌日の各小中学校での
学校交流では、お互いの自己紹
介や歓迎の言葉に引き続き、も
ちつきや日本の遊びなどのレク
リエーションが行われ交流を深
めました。

児童らは歓迎あいさつの中で、
英語で自己紹介をしたり、パソ
コンを使って日本の世界遺産や
積丹町の漁業について紹介した
りするなど、この交流会を楽し
みに学習していた様子がかが
えました。

レクリエーションを通じ、す
ぐに言葉の壁を越えた児童生徒
と留学生らは、終始笑いと歓声
の絶えない楽しいひと時を過ご
しました。



子どもたちの気持ちが 伝わる交流に

(社)北方圏センターが行う国際交流事業は、全道各地で行われていますが、10年にわたり継続的に取り組みを行っているのは現在道内で積丹町のみです。

町では急速な国際化が進むなか、子どもたちが国際感覚を身につけ、世界に目を向けるきっかけとなることを願いこの交流会を続けてきました。

この交流会に携わり今回で6

舞伎や赤や黒のきれいな着物の絵ハガキに留学生生らも握手で感謝を表しました。

河崎さんは「数年前に手ぬぐいを贈ったときも本当に喜んでくれました。

この絵ハガキを見て今回の交流会を思い出し、てほしいです。」と話していました。



と、評価していました。

小学校でも「英語」の時間

「体験」を通じた貴重な時間に

この交流会は、子どもたちが実際に外国語を耳にする貴重な機会となっています。

平成23年度からは、小学校での「外国語活動の時間」が教育課程に取り入れられることになっており、外国語教育への関心は高まっています。

言語や文化についての体験的な理解や、コミュニケーションへの積極的な態度、音声や基本的な表現に慣れ親しむことを目標に実際に耳で聞き、外国語で話をするこうした機会はとても重要な時間となっています。

過去9年間で参加した延べ916人もの町内小中学生にとってこの交流が、これからの国際化社会で生きる子どもたちの成長に役立つことを願っています。

河崎芳枝さんが踊りで歓迎 今年自作の絵ハガキをプレゼント

日本舞踊の愛好家の河崎芳枝さん(美国町)は、5年前から毎年日本舞踊を披露し、留学生等を歓迎しています。わかりやすく踊りの持つ物語の解説を交えた優雅な日本の伝統芸能の披露に、留学生等は終始釘付けで、大きな拍手で踊りの披露に心えました。

また、河崎さんは、留学生一人ひとりに自作の絵ハガキを贈りました。

踊りの持つ物語にちなんだ歌